

派遣報告書

専門家氏名：松本信彦

所属：埼玉県

派遣先：マレーシア国セランゴール州セラヤン市

派遣期間：令和5年10月16日～10月18日

(現地到着は10月15日、日本帰国は10月19日)

指導分野：高齢者福祉

老人ホームを管理する包括的な制度



開会式で記念撮影



講義①における自己紹介

1 派遣先

(1) 派遣先機関名

セラヤン市役所 (M P S)

(2) 派遣先の組織と業務内容

① 担当部署

社会開発局 (職員数は局長以下18名)

② 業務内容

スポーツ・レクリエーション、社会福祉全般、
イベント管理 (環境対策普及啓発なども対象としているとのこと)

2 受入体制

(1) 専門家の受入先での位置づけ

- セラヤン市は中央政府が定めた「国家高齢者計画」に従い、高齢者に対する福祉政策の一環として、老人ホーム (P A W E) の建設を進めている。しかし、同市は高齢者の福祉分野についてそれほどの知見や経験を積んでおらず、とりわけ老人ホームの管理に関する知見が少ない。

- このため、老人ホームを系統的に管理する包括的な制度や、日本の介護施設などの事例紹介を求め、期待していた。

(2) その他(スタッフや、予算、組織など特に気のついたこと)

- セラヤン市は首都クアラルンプールに接した自治体であり、人口は約70万人であるが、市の庁舎や組織は日本における町役場ぐらいの規模であった。
- 担当部局(社会開発局)は広範囲の業務を柔軟に実施しており、執務室訪問時には担当職員たちのチームワークの良さや活気を感じた。

3 指導内容

(1) 具体的指導内容

派遣先での専門家(松本)講義活動等は3日間にわたって行われた。

- ① 1日目
副市長表敬訪問、署名式、開会式
セラヤン市からの現状説明等、講義(①、②-1、2)
- ② 2日目
セラヤン市福祉フォーラム(セラヤン市の高齢化に向けた地元有識者たちによるディスカッション)
講義(②-3)
市長に挨拶及び記念品贈呈(昼食会場にて)
視察1:既存のPAWE(PAWE Rawang)
視察2:建設中のPAWE(PAWE SELAYANG)
- ③ 3日目
講義(③)、まとめと振り返り、閉会式、市長に報告

<以下、主な内容>

- 開会式
副市長、社会開発局長、地元の有識者(議員等)
副市長、専門家、クレアシンガポール事務所の挨拶、記念品の交換等
- セラヤン市からの現状説明
人口70万人から100万人に成長する見込み。マレーシアの定年(高齢者定義)は60歳で約11.5%だが、高齢者の孤立対策が急務となっている。
PAWE SELAYANGは高齢者の交流が目的の施設。利用者50名を想定。既に建設中。この専門家派遣により、より良い施設にした意向あり。
- 講義(日本の高齢者施設の実態①)
「自己紹介」
埼玉県の概要(人口や市町村)、専門家の職歴

「介護保険法の概要」

給付の仕組み（行政の給付と利用者の自己負担）、被保険者（第1号と第2号）、要介護認定（手順やしきみ、要介護区分ごとの利用限度基準額、入所施設利用のおおよその費用）、ケアマネジメント（介護支援専門員によるアセスメントからサービス計画案作成、モニタリングに至る一連の業務）

「介護保険法に基づくサービス」

居宅サービス（訪問介護、訪問看護、福祉用具貸与）、施設サービス（入所施設と通所施設）

● 講義（日本の高齢者施設の実態②-1、2）

「介護保険法による指定・指導の制度」

指定について（新規と更新、指定のための基準）、法第24条に基づく指導、法第76条に基づく監査

「施設の種類（通所施設と入所施設）」

通所介護事業所（ケアの内容、1日のスケジュール、利用者送迎サービス、手芸や脳トレ、筋トレなど機能訓練の例、食堂・機能訓練室の設備基準）、短期入所生活介護事業所（レスパイトケアも目的である施設）、入所施設（数種類もある入所施設の種別）

● セラヤン市福祉フォーラム

副市長、タウンプランナーなどの有識者5名が壇上でディスカッションを行った。マレーシアにおける高齢者支援の問題について、家族の介護のあり方、将来的な施設の重要性、宗教や民族との関連、支援する人材の確保、コストなどの観点から様々な意見が発言された。

● 講義（日本の高齢者施設の実態②-3）

「特別養護老人ホームについて」

概要、入居（利用）の条件、設備基準（居室、個浴や機械浴などの浴室、洗面設備・便所、食堂及び機能訓練室、医務室、消火設備）、人員基準（施設長、生活相談員、看護職員、介護職員、栄養士、介護支援専門員）、運営基準（内容及び手続きの説明と同意、サービス提供の記録、健康管理・衛生管理、非常災害対策など）

● 視察1：既存のPAWE Rawang

既に地元NGO組織により運営されているPAWE（高齢者の交流センターのような施設）を視察。運営委員会の代表者などから運営組織の概要、活動内容などについての説明を受け、また、活動の様子を見学した。運営委員会は社会福祉法人の理事会以上にシステムチックな構成となっており、安定的かつ継続的な運営が期待されるものであった。また、活動は施設内の授産活動や農業だけでなく、病气療養中の登録者（利用者）の自宅を必要により訪問するなどの積極的な活動も行われていた。また、小さいが農園を営んでおり、登録者たちが果物などを丁寧に栽培している様子も伺った。

● 視察2：建設中のPAWE SELAYANG

セラヤン市郊外に建設中の市営PAWEを視察。設計事業者などからの説明を受け、また、建築中の建物内を見学した。建物は平屋で小規模だが、敷地は広く、農園などの造成が予定されている。また、屋内には活動ルーム以外に、利用者が活動の一環で使うキッチン、イスラム教をさらに勉強するためでもある図書室、教室、シャワールーム、そして礼拝室もあった。さらに、完成時には環境対策のためのソーラーパネルが設置され、雨水を利用するシステムも導入予定とのこと。



視察1：既存のPAWE Rawang



視察2：建設中のPAWE SELAYANG

● 講義（日本の高齢者施設の実態③）

「特別養護老人ホームの運営（主な介護）」

介護サービス計画の作成、1日のスケジュール、食事介助（刻み食やペースト食、経管栄養）、排泄介助（トイレ介助とおむつ介助）、入浴介助（日本ではできるだけ入浴をさせて清拭は例外）

「特別養護老人ホームの運営（課題）」

事故の発生と防止（施設に多い事故の例、家族や行政に対する報告について）、虐待・身体拘束の防止、介護職員の確保（高い離職率、外国人介護職員の雇用）

● まとめと振り返り

セラヤン市からの説明や講義における質疑応答、視察の結果などを踏まえて作成したまとめの資料により発表を行なった。内容は、セラヤン市における高齢者福祉の現状と将来性を総括した上で、建設中のPAWE SELAYANGの評価できる点（主にハード面）

- ・ 環境に配慮した太陽光発電や雨水の利用システム
- ・ 利用者の健康に資する農園の造営
- ・ 高齢者がPAWEを利用するきっかけになる図書室の設置などを挙げた。

一方、開設後の運営に向けた専門家アドバイスとして

- ・ トイレ内の緊急呼び出し装置の設置
- ・ 体調悪化時にゆっくり休めるような静養室（スペース）の設置
- ・ 高齢者たちが行う運動が安全かつ効果的なものになるような運動指導専門員の配置
- ・ いつまでも利用できるような、送迎の仕組みの検討などを提案した。



まとめと振り返りで意見交換



市長室で結果報告

(2) 指導の成果について

① 日本の高齢者福祉施設の概要説明

限られた時間の中、主に特別養護老人ホームと通所介護事業所の運営について基準や取組を説明したが、これらはセラヤン市のPAWEの運営管理にも資する内容であったと考えている。この説明がセラヤン市のPAWE運営に役立ち、利用者の安心・安全に寄与できることを期待している。

② まとめと振り返りにおけるアドバイス

要介護の高齢者を支援・介助する日本の施設運営の観点から、いくつかの具体的なアドバイスができたと考えている。この助言により、PAWEを利用する高齢者ができる限り長い期間通所することができ、その高齢者の福祉に資するものになることを期待している。

(3) 指導における問題点(改善すべき点など)

① セラヤン市が建設中の施設と日本の通所介護事業所との隔たり

セラヤン市が建設中のPAWEは高齢者の交流センターであり比較的元気な高齢者の利用を想定していた。一方、日本の介護保険制度の対象は主に要介護の高齢者等であり、利用者の状態像が異なっている。このため、説明内容のウエイト配分に苦心したところである。(しかし講義後の質疑応答においては、セラヤン市幹部から施設における事故報告のことについてなどの核心を突く質問があるなど、今回の説明内容全般を参

考にさせていただいている印象はあった。)

② 介護保険制度の難解性

日本の介護保険制度は先進的であるかもしれないが、一方、大変複雑な制度でもある。例えば要介護認定やケアマネジメントの説明も行なったが、それぞれいくつもの業務について説明する必要がある、現地の人たちにどのくらい御理解いただけたのか不明である。このため、制度説明よりも施設内での訓練等取り組みについてもっと説明の時間をとれば良かったものと考えている。(しかし介護保険制度の説明はマレーシアの方々の将来に必ず役立つものと信じ、丁寧な説明を心掛けたつもりである。)

5 指導活動を終えての感想・意見

(1) セラヤン市の方々

この報告書に掲載している写真のとおり、現地では様々な多くの方々と接することとなったが、どこでも暖かい歓迎をいただいた。また、食事や現地視察などセラヤン市の担当職員の方々に御案内いただいたが、常に丁寧で親しみのある対応をしていただいた。

(2) まとめ資料の作成について

最終日に報告する「まとめ資料 (Summary and Final Report)」については、2日目の夕方ホテル内でクレアシンガポール事務所の3名のスタッフの方々と一緒に作成した。これはセラヤン市の現状や取組、これに対する提案を短時間でパワーポイントにまとめる作業であるが、クレアシンガポール事務所のスタッフの御尽力で何とか形になるものが出来上がった。また、現地では、常になんでも日本語で相談できるクレアシンガポール事務所スタッフのおかげで精神的に救われたことが多かった。

(3) 最後に (閉会式で述べた私の挨拶から)

セラヤン市の皆様が高齢者の将来のことに強い関心を持ち、取組んでおられることを知り、とても感銘を受けました。

(中略)

私はこれまで長く高齢者福祉の職務を続けてきましたが、複雑で変化し続ける社会情勢のなか、いつも悩みながら後悔しながら仕事をしている毎日です。そのような中でも、私は常に「高齢者の安心と安全を最優先にする」ということを念頭に置いています。そしてこれからそれを忘れずに仕事を続けていきたいと考えています。

今回の私の講義はどれだけ皆様の御参考になったのかわかりませんが、私にとっては大変貴重な経験となりました。特にセラヤン市の市長さんや副市長さんをお会いすることができたことは、私の人生の中でも大変光栄な出来事となりました。

このような機会を与えてくださったクレアシンガポール事務所様にも、厚く感謝を申し上げます。

もし機会をいただけるのであれば、これからも、マレーシアのため、セラヤン市のためにお役に立ちたいと強く願っています。

また、セラヤン市の方々も、ぜひ日本の埼玉県にお越しいただき、皆様の取組を教えていただくとともに、埼玉県の現状を見て御意見をいただきたいと願っております。

そして、セラヤン市と埼玉県が国連のSDGsで掲げる「誰一人取り残すことのない」社会の実現ができたらと願っています。

改めて、本当にありがとうございました。トゥリマカシ。



PAWE Rawang 会長から記念品



PAWE Rawang で利用者と交流



市長室で記念撮影



福祉フォーラムで記念撮影